

継続看護への取り組み

—助産婦カルテを使用して—

産科分娩部：発表者 伊藤 寿美

池野 位子・松本あつ子・山口 文子・中嶋まさ子
高山まさみ・原田 由紀・百瀬 妙子・久保田裕子
木南 園子・中嶋 薫・池田紀美子・小林 澄子
柳原富美子・田畑久美子・

I はじめに

近年多くの場で、継続看護が検討されている。当科においても、一人の女性の妊娠～出産～育児という一連の流れの中で、継続された援助が必要とされ検討してきた。その一貫として昨年度院内研究では、妊娠中～産後1ヶ月検診にかけて継続的に記録できる助産婦カルテを作成するにいった。

そこで今回は、さらに検討を加えた助産婦カルテを使用し、退院後、褥婦と新生児で援助を必要とした人に電話訪問をした。そして、問題解決を試み考察したのでここに報告する。

II 目的

- (1) 継続した記録ができる。
- (2) 問題点を明らかにした援助ができる。

III 期間

昭和61年8月～昭和63年4月15日

IV 対象

昭和63年1月1日より当院通院妊産婦。そのうち昭和63年4月15日迄に産後1ヶ月検診終了予定者114名中92名（初産婦37名経産婦55名）は統計的にデータをとった。

V 方法

- (1) 妊娠中～1ヶ月検診までを ①外来通院中 ②妊婦入院中 ③分娩～退院 ④退院～1ヶ月検診迄の4つの時期に分け、各々にカルテ① カルテ② カルテ③ カルテ④を用いる（資料1～4参照）。これら4形式のカルテを助産婦カルテとする。
- (2) カルテ①は、妊娠届が出た時点で妊婦自身に必要事項を記入してもらい作成し、外来での指導内容を記録していく。
カルテ②は、妊婦入院中使用し、問題点に対する具体策、評価およびDrの指示等を記録する。
カルテ③は、産婦入院時作成し、毎日の乳房状態、問題に対する具体策と評価および産褥4日目、退院前日カンファレンスの内容を記録する。その時点で退院後援助が必要か否か検討す

る。

カルテ④は、退院時の個別指導、援助を必要とした人への退院後3日目電話訪問（電話で解決できないときは来院してもらおう）、1ヶ月検診時の問診による個別指導を一貫して記録する。

(3) 対象者のうち電話訪問、あるいは来院し指導を受けた者に対し、指導について感想を聞いた。

VI 結果および考察

カルテ①より外来にて乳房指導が行われたのは31名、記録なし（記録漏れも含む）が61名である（表1参照）。また対象者の中で実際に妊娠中手入れをした人は、約半数である。そのうちのほとんどが乳頭マッサージを時々しているだけであった（表2参照）。

表一 外来で乳房管理指導をした人

乳房管理指導内容	人数 (名)
基底部 及び乳頭マッサージ	15
乳頭マッサージのみ	15
基底部マッサージ	1
記録なし（記述漏れも含む）	61

表二 妊娠中乳房管理をした人

乳房管理内容	毎日	時々
乳頭マッサージ	7名	25名
基底部マッサージ	2名	5名
基底部及び乳頭マッサージ	0名	7名
全くやらずまたは不明	46名	

乳房トラブルの予防的見地から言っても、個々への乳房指導が難しい現行の外来システムは問題があると考えられる。そこで、問題解決のために妊娠20週前後を対象とするミニマザークラスを開き、指導漏れのないよう徹底した指導が必要と思われる。また、カルテ①は妊婦自身の希望の把握、入院時のアナムネへの活用も目的としていたが活用されていない部分もある。入院時にも活用できるようカルテ①の形式の再検討をしていきたい。

カルテ②③より入院中に問題点が生じカンファレンスが行われている人は、約半数であった。しかし、評価までされている人は約3割である。看護の展開のためにも全例に評価できることを目標としたい。また、カンファレンスにて退院後援助を必要とした人は92名中58名68%に及ぶ。初、経産婦別に見ると初産婦37名中28名75.6%、経産婦55名中30名54.6%である。

その理由は、表3からも分かるように母親側の問題が多い。なかでも母乳分泌量が少ない26名、

表一 援助を必要とした理由

母の問題	理由	人数
母の問題	分泌量不足	26名
	乳房、乳頭トラブル	13
	育児に対して不安がある	16
	その他	19

児の問題	理由	人数
児の問題	哺乳状態や体重増加が心配	10
	チアノーゼ、黄疸がある	9
	その他	3

乳頭、乳房のトラブル13名と乳房に関することが多い。この結果からも妊娠中の手入れの必要性を感じる。さらに母親自身が育児に対し不安がある、という理由も上げられている。また、児の問題

も22名と多く見逃せない。母乳管理を含めた育児全般が5日という短期間では解決できない、という指導者側および指導を受ける側の不安からこの結果に結び付いていると思われる。

援助を必要とした人58名の援助方法は表4のとおり約7割が電話訪問である。この中で1回の電話訪問で解決できず重ねて電話訪問をしたり、来院指導をした人も13名おり問題解決の難しさを感じた。9名には体重測定、乳房トラブル等で、来院指導を行ったが、勤務状況によっては満足できる援助ができなかったり、入院者への援助のほうの手薄になってしまう問題もあった。そのため必ず来院前に電話連絡してもらうことにより解決にあたっている。電話訪問の方法不徹底から電話できなかった人は7名である。退院後の援助方法を徹底する必要がある。助産婦カルテを使用した継続指導は、入院中その患者にかかわらなかつたスタッフも方針にそつた退院指導ができるし、重ねて援助の必要な人には、特にいかせたと思う。

退院指導は全例に行われているはずであるが、6名に記録がない。これは現在看護記録と助産婦カルテの両方に書かなくてはいけないため、助産婦カルテの記録が落ちたと思われる。

(3)の結果は表5のとおりである。安心、心強い、嬉しい等が多かつた。周りに育児経験者が少ないため相談できる場がなかつたのだろう。このことを考えると不要とした人の中でも電話訪問を希望する人はいただろうし、相談窓口として電話訪問をみなに実施すべきかも知れない。時期については3日目で良かった、あるいは7日目頃がよかつたと意見が分れた。3日目でよいとした人は、初産の人が多く、7日目頃とした人は経産婦が多い。

これは初産婦が帰宅後すぐ不安になるのに対し、経産婦は上の子のこともあり生活が落ち着く7日目頃に希望している傾向があると考えられる。

Ⅶ まとめ

今回助産婦カルテの使用で、継続した記録と問題点を明確化しそれに応じた援助を行うことを目的としたが、おおよそ達成できたと思う。研究期間中だけでも退院後の援助を必要とした人が多く、妊娠～産褥の指導と記録を一貫して行うことが妊産婦にとつてもいかに有意義であるかを再認識した。しかし、今回の助産婦カルテは形式上重複したり、次のカルテに利用されないなどの非能率的な面もあつたし、使用方法の不徹底から記述漏れも多く援助にいかされないなどの問題もあつた。今後さらに助産婦カルテを検討し母性看護の記録としていき継続指導の質の向上を目指したい。

表—4 援助方法

電話訪問した	41名
新生児の体重測定に来院した	7名
乳房トラブルで来院した	2名
電話訪問できなかった	7名
電話する前に相談の電話がきた	1名

表—5 退院後援助を受けた人の感想

	初産 (名)	経産 (名)
安心、自信つく、心強い等	18	10
3日目頃が不安なときでよい	10	6
7日目頃がよい	2	7
2週間後位に もう一度電話欲しい	2	0
その他	2	2

参考文献

- 根津 八鉦：産褥乳房管理学 諏訪メディカルサービス 第1刷 1985.
- 由衛美佐子他：極小未熟児の母親の乳房管理の一事例
〈第16回日本看護学会集録母性看護〉 日本看護協会出版会, 1985, P49～P52.
- 白坂 末子他：母乳栄養をめざしての段階的継続指導
〈第15回日本看護学会集録母性看護〉 日本看護協会出版会, 1984, P72～P74.
- 岩井 夏子他：助産婦カルテを作成して
〈第14回日本看護学会集録母性看護〉 日本看護協会出版会, 1983, P78～P82.
- 細川喜見子他：母乳哺育確立への援助
〈第18回日本看護学会集録母性看護〉 日本看護協会出版会, 1987, P44～P46.
- 谷内 絹枝他：産科における記録用紙の改善
〈第13回日本看護学会集録母性看護〉 日本看護協会出版会, 1982, P70～P73.
- 島崎 千尋：いま求められている退院指導
助産婦雑誌, 38 (2): P10～P13, 1984.
- 芹沢茂登子：赤ちゃん110番にみる育児の悩みと退院指導に望むこと
助産婦雑誌, 38 (2): P44～P49, 1984.

資料一 1 助産婦カルテ①

- ・予定日 _____ 月 _____ 日
- ・現住所 _____
- ・実家住所 _____
- ・連絡先 TEL (妊娠中必ず連絡の付くところ) _____
- ・職業, 前歴 _____ 現在 _____
- ・分娩場所 (○で囲んでください) 信大 他院
- ・入院時当病院までの所要時間 _____ 時間 _____ 分
- ・今回のお産は ①初めて ②2度目 ③ _____ 度目
- ・家族構成をお書きください
- ・お産の学級受講希望はありますか 有 無
- ・母乳について 前は (母乳のみ 混合 ミルク)
- 今回は (母乳で できれば母乳で どちらでも良い)

今回の妊娠, 分娩にあたり, 不安なこと, 望むことがありましたら記入してください。

指導内容チェック

つわり 日常生活動作 流産予防 貧血 妊娠中毒症 食事指導 母親学級受講

乳房

乳頭 左	基底部マッサージ指導	週	入院時期の説明
右	乳頭の手入れ指導	週	入院予約

その他

資料一 2 助産婦カルテ②

氏名

主訴

台帳番号

動 静	月/日	内 服 薬	

清 潔	月/日	

方針 そ の 注 意 点 他	月/日	

日	問題点	具体策	実施 及び 評価	followの 要・不要

資料-3 助産婦カルテ③

氏名 _____ 分娩日 _____ 月 _____ 日 _____ ID番号 _____ 台帳番号 _____

特記事項 及び Dr の指示など	
---------------------	--

図		乳頭	突出	左右	乳輪 大きさ	大中小 短固	副乳	有無	前回	母乳 混合 ミルク	手 入れ	1. SMC 毎日・時々 (週頃より)
			扁平	左右								2. 毎日・時々
型	I II III		随没	左右								3. 行っていない

		1	2	3	4	5	6	7	8
乳	緊								
副乳	腫張								
分	直母量 (g)								
	搾母量 (cc)								
発赤・水泡・亀裂		左 右	左 右	左 右	左 右	左 右	左 右	左 右	左 右
乳輪・エデーム		左 右	左 右	左 右	左 右	左 右	左 右	左 右	左 右
乳房のしこりの図示 (部位を斜線で示すこと)									
		深日準	深日準	深日準	深日準	深日準	深日準	深日準	深日準
アイスノンの使用									
マッサージ									
乳頭帽使用									

日	問題点	具体策	実施 及び 評価	follow の 要・不要

保健指導 産褥 育児 家族計画 (行ったものを○で囲む)

4日目カンファレンス (退院時カンファレンス)	電話 follow の 要・不要
-------------------------	---------------------

資料一 4 助産婦カルテ④

月 日 連絡先 電話番号 () - ()

退院指導 サイン	児 の 状 態	
	嘔吐	退院前日 の哺乳量 / 日
	D I V	
	黄疸	
	眼 脂	
	殿部発赤	
その他		

3日目電話訪問

約 時間おきに授乳	指 導 内 容	サイン
1. 母乳のみ		
2. 時々ミルク足す		
3. ミルクが多い		

1ヶ月検診 尿蛋白 () 尿糖 () B P (/) 浮腫 ()

(1) 乳房の状態 トラブル

(2) 母乳状況 1. 母乳のみ

2. ミルクのみ

3. ミルクを ml 回/日 日頃より

<理 由>

(3) 悪露の状況

(4) 児の1ヶ月検診 済み ・ これから

<問題・トラブル>

(5) その他